

| | | | |
|-----------|---|------|---|
| 講義名 | 教養特講Ⅰ（地理・歴史へのいざない） | | |
| 科目区分 | 教養特講 | | |
| 担当教員 | 藤原 喜美子 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 木曜日 3時限 | 授業形態 | |
| | 2020年度 人間社会学部 人間健康学科/2020年度 人間社会学部 観光学科/2020年度 人間社会学部 人間社会学科/2020年度 経済学部 経済情報学科/2020年度 経済学部 経済学科/2020年度 商学部 マーケティング学科/2020年度 商学部 経営学科 | | |
| 履修開始年次 | 1年生 | 単位数 | 2 |
| 備考 | | | |

主題と概要

現代社会で起こっている様々な現象や人間生活について学び、社会で活躍するには、地理・歴史分野に関する知識が必要であり、このことは、高等学校までのカリキュラムで地歴教育（地理・日本史・世界史）が行われていることからわかる。しかし、高等教育の学習分野とその量は膨大なもので、受験科目以外は軽視されがちであり、まんべんなく十分な知識を持っていないのが実情である。知識が少ない分野は、その分野に関して新しく学ぼうとする意欲も低くなりがちである。この科目のみで、上述の高等教育の偏頗性を取り除くことは難しいが、幼い時の何にでも関心を持ってた頃に立ち戻り、身近な事例や、関心を持ちやすい事例を中心に学ぶことで、地理・歴史分野について関心を持ち、学び続ける態度を養う。

到達目標

地理・歴史分野に関する興味や知識を、自分自身の生活と結び付けて説明できるようになる。

提出課題

1. 授業では、毎回、感想文や授業の確認内容などを記入し、小レポートとして提出してもらう。
2. 小レポートとは別に、指定したテーマについて、レポートの提出を求める。詳細は別途、6月の前半に、RYUKA Portalの教務掲示において、「レポート課題」を掲示する（掲示後、提出までの期間は、約1か月とする）。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

各回の授業に書いてもらう感想文の内容は、提出後の授業などで、日本の地理や歴史の事例として紹介する。

評価の基準

評価は、①平常点（各回の感想文や授業の確認内容を記した小レポート）、②レポートを総合して行う。

履修にあたっての注意・助言他

高校の『地理B』や『日本史B』の教科書は参考になる。もし、高校の時に使用していた教科書があれば読んでほしい。どの出版社のものでもよい。また、書店によっては、高校の教科書を販売している。

| |
|------------|
| 教科書 |
| . 使用しない。 |
| |
| |
| |
| |
| |

プリント資料及び参考文献

プリント資料…各回、プリント資料を配布する。
※プリント資料は、無くさないようにすること。
参考文献…適宜紹介する。

授業計画

- 日本の歴史・地理とは
- 大阪の史跡
- 奈良の史跡①
- 奈良の史跡②
- 京都の史跡①
- 京都の史跡②
- 滋賀の史跡①
- 滋賀の史跡②
- 三重の史跡①
- 三重の史跡②
- 和歌山の史跡①
- 和歌山の史跡②
- 兵庫の史跡①
- 兵庫の史跡②
- 講義のまとめ

| | |
|--------------------------|--|
| 授業形態（アクティブ・ラーニング） | |
| | ア：PBL（課題解決型学習） |
| <input type="radio"/> | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| | ウ：ディスカッション、ディベート |
| | エ：グループワーク |
| | オ：プレゼンテーション |
| | カ：実習、フィールドワーク |

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習…次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、そのテーマについて、翌週までに興味のある単語や事柄を1つ調べる（約1時間）
復習…授業終了時、その日の授業内容を確認しながら、内容に関わる感想文を記入する。また、各自で、その日の授業の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約1時間）。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、プリントを用いた講義形式で進める。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は日本民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考

地理や歴史について、各自の出身地について関心を持つきっかけにしていきたい。講義では、まず、大学のある周辺の特徴を知るために、近畿地方の地理や歴史をテーマに取り上げ、その特徴を受講生の皆さんと考えていきたい。